

記念館新聞

福岡町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福岡町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

新年あけまして おめでとうございます

昨年、辻川山公園のため池に河童の河太郎(兄)と河次郎(弟)ができたことでもにぎわい、記念館の入館者数が1万人を超えました。

多くのみなさんに記念館にご来館いただき、感謝申し上げます。本年は、國男の生誕140年と鼎の生誕155年という節目を迎えます。業績を展示などで紹介していきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

柳田國男

生誕140年

平成27年(2015)は、柳田國男生誕140年です。國男は10歳で母親の郷里である加西郡北条町(現加西市北条)に移り住むまで、福岡の辻川



岩田健三郎・画「未」

で過ごしました。88歳で亡くなった國男にとつて、この10年という月日は長いとはいへません。

けれども、85歳のときに出版された『故郷七十年』には、柳田國男生家をはじめ、福岡でのさまざまな体験が記されており、それが後の國男に大きな影響を与えたことがわかります。今年、國男が遺した『故郷七十年』をよんでいねいに読み解いていきたいと思ひます。

来館者1万人目!



1万人目の近藤会美さんご家族と高寄教育長(左)

12月13日(土)に、記念館の平成26年度の来館者数が1万人を超えました。

1万人目は、加古川市の近藤会美さんです。ご家族で辻川山公園の河童を見学に来られ、当館にお越しくださいました。

高寄教育長から記念品をお贈りしました。おめでとうございませう。また、ご来館ください。

國男の雑学

下の写真には、左から岡田武松、木間瀬策三、柳田國男が写っています。

このとき國男は29歳で、法制局参事官でした。



故郷七十年を 読む



平成27年(2015)は、國男の兄である鼎の生誕155年の年でもあります。

『記念館新聞』第74号で紹介したように、兄の鼎は千葉県南相馬郡布佐町(現我孫子市布佐)に移り住みました。

この鼎宅の近くには岡田武松の生家があります。「故郷七十年」では、「布佐の家のごく近いと



岡田武松生家跡地(現在のようす)

ころに、偶然にも播磨屋という古着商があった。その家が後に氣象学者になった岡田武松博士の生家なのである」と記しています。そして、國男が東京で入学した第一高等学校の一つ上の級に岡田武松がおり、いっしょに茨城の辺りを旅行したと記しています。

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
☆休館日
月曜日、祝日の翌日
12月28日～1月4日
☆入館料
無料



館日記

12月7日(日)に、岩田健三郎さんの版画教室を開催しました。平成27年の干支である「未」の年賀状をつくりました。

今回は岩田さんの参考作品を見ずに、羊を考えて描き、彫りました。そのため、岩田さんは羊の描き方、彫り方、刷り方を細やかに指導してくださいました。みなさんの熱心な作業によって完成したすてきな年賀状を受け取った方の喜ぶ顔が浮かびます。



版画教室のようす